

# 吉川緑 作品集

## 言語化される前の感情を紡ぐ

A Digital Gallery & Portfolio



## 吉川緑 / YOSHIKAWA Midori

「言語化される前に芽生えては消えていく、
感情や感覚に関心があります。
それは、一瞬で過ぎ去る『今』の中に現れ、
言葉にすることで取りこぼされてしまう
儚いもののように感じられます。」

大分県出身
2011年　大分大学教育学部 総合表現コース絵画専攻　卒業
2011年 - 2017年　大分市芸術施設でイベントディレクターとして勤務
2017年 - 2023年　法律事務所職員をしながら絵画制作を再開
2025年　個展「あそびば」開催（大分市アートプラザ）/
PickupArtist 特別展示

# 創作の3つの柱（Three Pillars of Creation）



## 素材の選択
(Choice of Material)

紙や鉛筆、透明水彩を使用。完全に定着することなく、にじみや揺らぎを伴う「不安定な状態」を表現。



## 言葉なき感覚
(Unspoken Sensations)

言葉にする前に消えてしまう、一瞬の「今」の感情を描き留める。



## 過去への眼差し
(Gaze into the Past)

言葉を持たなかった「かつての子供の頃の自分」へ向けた対話と試み。

# Gallery I：にじみと揺らぎ（The Fragility of Material）



柔らかく脆い鉛筆のストロークが、不確かな記憶の輪郭をなぞる。



意図的に残された余白が、定着しきれない「揺らぎ」を際立たせる。

# Gallery II：魔法と遊戯（Symbols of the Unspoken）



手の仕草、魔法のステッキ、折り紙の鎖。これらは、言葉にできない感情を具現化するための「遊戯」の痕跡です。過ぎ去る「今」を物理的な行為によって繋ぎ止めようとする感覚が、緻密に描かれた指先に宿っています。



# Gallery III：かつての自分へ（Dialogue with the Inner Child）

「言葉を持たなかった、子供の頃の自分に向けた試み」







寡黙な少女の眼差しや、古びたぬいぐるみが放つ静謐さ。
それらは、失われた時間へのノスタルジーではなく、
現在から過去の自身へと宛てられた私的な手紙のような静けさを持っています。

# 作品を貫く3つのモチーフ（Recurring Visual Motifs）

## 眼差し
## (The Gaze)





鑑賞者を静かに見つめ返す、
言葉を発しない少女たちの瞳。

## 手と行為
## (Hands and Actions)





何かを編み出し、繋ぎ合わせよう
うとする手のクローズアップ。

## 寄り添うもの
## (The Companions)



孤独な内面世界に静かに寄り添
う、動物や玩具たちの存在。



## 制作という行為（The Act of Creation）

脆い紙の輪を一つずつ繋ぎ合わせていく遊びのように。

吉川緑が透明水彩と鉛筆を重ねる行為そのものが、取りこぼされてしまう儚い記憶の断片を、静かに、そして確かに繋ぎ止めるための儀式となっています。



# 展覧会と軌跡（Exhibitions & Footprints）

・個展「あそびば」開催
（大分市アートプラザ）

・「Art Market vol.49」特別展示
（PickupArtist）

・個展「ありのあしあと」
（大川市立清力美術館）

2026年



吉川 緑 / Midori Yoshikawa

「かつての自分——言葉を持たなかった、子供の頃の自分へ向けた試み。」